

— わがまち歴史探訪、足もとの文化遺産への誘い —  
ミュージアム都留からののお知らせ

3月24日(土)より

収蔵資料展『郷土の画家展—花鳥画を中心に—』

ミュージアム都留の収蔵品より、米山朴庵、藤井霞郷、田中蘭谷など郷土の画家たちの作品を、花鳥画を中心に展示します。



米山朴庵「四季図屏風」

米山朴庵

本名は米山登。画号は朴庵、停雲閣、溪素軒、六石堂。

元治元年(1864年)9月29日、境村(現東桂)の天野家に生まれ、8歳のとき、米山喜七の養子となる。帝室技芸員(注)に選ばれた日本画家・滝和亭の門に入り日本画を学んだ。卓越した技術を持ち、病床の師・和亭から作品の完成を託されるほどであったという。和亭とともに千葉県野田醤油醸造業(現キッコーマン株式会社)の茂木家に身を寄せて親交を深めた。谷村の小池家にも出入し作品を残している。画壇における勢力争いなどを嫌い、展覧会へは一度も出品しなかった。昭和3年(1928年)、東京若宮町の自宅で没。享年64歳。



(注)帝室技芸員…明治23年(1890年)から終戦直後まで、宮内省によって運営されていた美術・工芸作家の顕彰制度。文化勲章や重要無形文化財などの制度のもととなった。

休館日 月曜日(月曜日が祝日の場合は開館し、翌日が休館)、第3火曜日、祝日の翌日

観覧料 一般 300円(210円)  
高・大学生 200円(140円)  
小・中学生 100円(70円)

※( )内は20名以上の団体料金

※チケットは増田誠美術館と共通券となっています。

問合せ先 ミュージアム都留 ☎(45)8008

勝山城のなぞに迫る！

先月に引き続き小山田氏に焦点を当てたいと思います。現在、勝山城跡学術調査会では、小山田氏の館と伝えられている中津森館跡も調査の対象としています。

「勝山記」には、「(前略)、中津森ノ殿様百ツホ(坪)ニ御家作り玉フ、(後略)」とありますが、中津森館跡の記述は文献資料にわずかに残っているのみで、館が建っていた具体的な場所は分かっていません。そのため、調査で推定地を割り出したいと考えています。

具体的な方法として、発掘調査・地中レーダー探査や航空写真・地形測量図・古地図などを用いて中津森館



金井村絵図(中津森館跡推定地域)

跡に迫りたいと考えています。中津森館跡を調査することは小山田氏の謎に大きく迫るとともに、中世の郡内の様子を知る上でも重要な鍵になると考えられます。

勝山城跡学術調査は、来年度も引き続き実施しますので、皆様のご協力をいただけますようお願い申し上げます。

増田誠美術館

増田画伯が描く山

会期 3月10日(土)～6月17日(日)  
開館時間 午前9時～午後4時30分  
会場 増田誠美術館(ふるさと会館2階)  
休館日 月曜日、第3火曜日、祝日の翌日  
※3月5日(月)～9日(金)は展示替えのため休館します。

増田画伯はふるさと「都留」をこよなく愛し、そして、ふるさとの思い出の中にはいつも富士山がありました。画伯は晩年、生まれ故郷の都留から見た富士山を描くことに全精力を傾け、ふるさと「都留」を描いた作品13点が最後の作品となりました。

今回の展示会では、ふるさと「都留」を描いた作品13点のほか、ヨーロッパの山並みや風景を中心に展示します。ぜひご覧ください。



お城山よりの富士